

「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表

機 関 名	広島大学	拠点番号	D12
申請分野	人文科学		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	21世紀型高等教育システム構築と質的保証 (Construction and Quality Assurance of 21 st Century Higher Education System)		
研究分野及びキーワード	〈研究分野:教育学〉(高等教育研究) (21世紀型高等教育システム) (大学改革) (教職員の資質開発) (学問的生産性の条件)		
専攻等名	高等教育研究開発センター		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 有本章教授 他 13名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書(平成16年1月現在)を抜粋

<p>＜本拠点がカバーする学問分野について＞</p>	<p>1. 人文科学領域の教育学分野。</p> <p>2. その具体的な下位分野として本COEプログラムに参画しているのは、教育社会学、大学史、教育工学、比較教育学、教育行政学、教育経済学、科学史などの専攻分野の研究者。</p> <p>3. より具体的には、比較高等教育論、高等教育組織論、大学教育論、高等教育政策・財政論、大学アドミッション論、学力形成論、高等教育国際化論、高等教育目標論、高等教育教員職員開発論、学生マーケティング論。</p>
<p>＜本拠点の特色及びその目的等＞</p>	<p>1. 広島大学の将来構想の中で「特別研究センター＝学内COE」として位置づけられ、重点的に充実を図ることを目指したプログラムである。</p> <p>2. 高等教育研究開発センター自身も高等教育研究のCOEを意図的に形成することを目的としている。</p> <p>3. SCI(科学引用索引)等の研究によって理系分野よりも立ち遅れているとされる人文科学分野での世界的な拠点形成を達成することが必要であり、その中期的長期的な国際戦略を展開することが重要である。</p>
<p>＜COEを目指すユニーク性＞</p>	<p>1. 本センターが、国際水準の学問的生産性(研究生産性・教育生産性)を上げ、国際的拠点を形成するには、高等教育研究分野において蓄積した創設以来30有余年の伝統と実績の活用が有効であり、日本の類似機関の中では最有力である。</p> <p>2. 他の機関では、1980年代後半に誕生した筑波大学大学研究センター、あるいは1990年代以降に誕生した諸機関などが期待されるが、現状では伝統、実績、規模、機能などの点で当センターに比べて必ずしも十分な状態に発展していると言えない。</p> <p>3. 本センターは、研究を中心に教育・サービス・政策など高等教育研究の総合的アプローチにおいて、あるいは世界的研究ネットワークの形成などにおいて、日本を代表する機関として最もユニークな特色を発揮しており、今後も主導性の発揮が期待される。</p>
<p>＜本拠点のCOEとしての重要性・発展性＞</p>	<p>1. 創設30有余年にわたり日本の高等教育研究の実質的な拠点として、広く学術研究に基づく高等教育計画・政策提言、大学改革への貢献、国際共同研究や研究ネットワークの形成、高等教育研究者の養成等の貢献を通して、拠点の役割を果たした。</p> <p>2. すでに各種の文献によって本センターが国際的な拠点として認知されているのは、こうした活動実績によるものであるが、それを踏襲して現在充実した活動が展開されていることに鑑み、今後の発展性は大きいと考えられる。</p>
<p>＜本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果＞</p>	<p>1. 主題「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」にかかわる基礎研究の成果を公表し、拠点性を持った高等教育研究の発展とともに高等教育政策の展開に寄与する。</p> <p>2. 具体的には、①社会変化および学問変化(知の再構築)と大学の関係、②高等教育システムの理念・目的、③人材開発とかかわる大学教員、職員、学生の研究、若手研究者養成、特にFDおよびSD、④教育システムとかかわる大学教育のカリキュラム、教育過程、教育指標、⑤研究システムとかかわる研究、研究者、大学院教育、⑥大学組織編成とかかわるガバナンス・管理運営・財政、⑧これら全体の質的保証の研究、などを諸理論を基に国際比較の視点から解明する。</p>
<p>＜背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等＞</p>	<p>1. 国際的に高等教育が社会発展の鍵を握る要因として注目されている現在、各国およびその研究者が世界の拠点を中心に研究ネットワークを形成し、高等教育システム構築と質的保証に関わる政策、研究に取り組んでいる実態が見られる。</p> <p>2. 例えば、そのことは国際学協会、ユネスコ、OECD、拠点大学等が国際的かつ地域的な研究ネットワークを構築し、社会、知識、科学、高等教育の関係を集中的・体系的に研究している事実から察知できる。</p> <p>3. グローバル化、知識社会化、市場化が一層進行すると見込まれる今後、こうした研究成果が基礎研究レベルだけでなく、広く政策、応用、実践レベルで活発に展開される可能性が高い。日本の拠点性の形成とその影響力の向上が重要である。</p>

機 関 名	広島大学	拠点番号	D 1 2
拠点のプログラム名称	21世紀型高等教育システム構築と質的保証		

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

(総括評価)

当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される。

(コメント)

実施計画が具体的・詳細に開陳されており、また計画にそって地道な努力をして成果をあげていることは評価される。しかし、「世界最高水準の研究教育拠点」形成のためには、地道さと同時に大胆さと冒険も必要であろう。その点でいくつかの注文もある。実情調査以上の構造的問題についての研究にもっと進み、申請書にも示されているような知の再構築についてのチャレンジングな研究成果（たとえば学問や学部という分類学の脱構築など）を期待したい。高等教育におけるジェンダー問題（制度・組織論など）についてもっと研究を進めてほしい。若手研究者育成についても、アンケート調査やデータ分析以上のしっかりした理論的背景（社会学理論であれ、経済学理論であれ）をもち国際的に活躍できる人材養成を望みたい。重要な研究テーマだけにさらなる研究・教育の発展に期待したい。